

業種別動向

(1 2) 自動車部品工業

14 / 13 15 / 14

伸び率10%以上 ? 伸び率0 ~ 10%

: 天気図マーク ; ?

伸び率0 ~ 10%

伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向

(1)需要

平成 1 4 年度の自動車の国内販売は 2 年ぶりの増加となり、また、輸出についても、北米向けが引き続き好調に推移したことに加え、アジア向けの増加により、2 年ぶりの増加となった。その結果、自動車の国内生産は対前年度比 5 . 3 % 増加し 2 年ぶりに 1 , 0 0 0 万台を回復した。

このような状況の中、国内の自動車メーカー向け組み付け部品が全体の需要先の 7 割強を占める自動車部品工業における平成 1 4 年度の国内出荷は、国内自動車生産の増加により、前年度出荷額の 1 3 . 5 兆円を上回る規模になったものと予想される。

国内自動車メーカーは海外生産の拡大、コスト低減活動等一層の経営効率化を進めているところであるが、自動車の国内生産台数については今後大幅な拡大は見込めない状況にある。このような厳しい環境の下、自動車部品企業各社は思い切った経営改革に取り組んでいるが、グローバルレベルでの競争が一段と熾烈になってきていることに加え、新製品開発、環境・安全関連技術の研究開発、モジュール化への対応、グローバル供給体制の構築等継続的な先行投資が求められており、自動車部品企業を取り巻く環境はますます厳しさを増している。

(2)生産・設備稼働

生産

経済産業省「機械統計調査」によると、国内の自動車部品生産は国内自動車生産の増加により、対前年度比 6 . 6 % 増加の 6 兆 5 , 8 7 0 億円と 2 年ぶりの増加となった。

在庫

在庫については、種類によって若干の差はあるものの、自動車メーカーとの連携により必要最低限の在庫水準で推移している。

生産能力・設備稼働率

国内自動車メーカーによる海外生産の増加や海外現地調達増大など、グローバル化の進展に伴う世界規模の競争激化により、自動車部品メーカーは生産設備の合理化、工場の集約・再配置等生産体制の再構築を進めており、設備稼働率は徐々に改善しつつあると考えられる。

(3)企業収益

上場自動車部品メーカー 7 3 社の平成 1 4 年度決算（連結）では、国内外の自動車生産の増加に伴う部品の売上増加に加え、新製品の開発、投入や海外自動車メーカーへの拡販等により、売上高については 1 0 . 0 % の増加となった。また、経常

利益についても、自動車メーカーと共同でのコスト低減や部品企業の構造改革的な固定費削減等により34.8%の増益となった。

(4)財務

上場部品メーカー各社の動向を見ると、前年度に引き続き退職給付債務や有価証券評価損等の処理を積極的に行うなど、財務体質の改善に取り組んでいる。

2. 設備投資動向

(1)これまでの設備投資の推移

自動車部品工業の平成14年度の設備投資実績見込額は、3,145億円で前年度に比べ7.2%の減少となった(13年度-14年度共通企業ベース59社)。自動車業界におけるグローバル化の進展等を背景に、今後国内生産の大幅な増加が見込めない中、総じて各社とも投資額の抑制を図っているものと思われる。構成比では、モデルチェンジ対応に係る投資の割合が依然として高い。省力化、研究開発維持・更新に係る投資については減少傾向で推移し、合理化に係る投資が増加している。

(2)平成15年度の設備投資計画

平成15年度の設備投資計画は、2,235億円で前年度に比べ5.5%の増加となった(14年度-15年度共通企業ベース53社)。環境対応や設備の維持・更新、コストダウン強化のための合理化に係る投資の割合が高くなっている。

3. 長期資金調達・運用動向

平成14年度の長期資金需要動向は、設備投資向けの割合が高くなっており、短期資金への振り替えも増加している。平成15年度計画においては、投融資向けが増加している。

平成14年度の長期資金調達動向は、社債発行による調達が増加している。平成15年度計画においては、借入金による調達を絞り込み、内部資金の活用を進める傾向にある。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)

